

① 重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成【学習】【各年次】
② 重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実	2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保
③ 現状	・学力の多層化が顕著である。 ・前後期制，文理混合クラス，習熟度別授業等，様々な状況において，生徒を適切に指導する必要がある。 ・新学習指導要領完成年度にあたり，組織的に対応する必要がある。	・学習習慣はある程度できているが，自身の目標実現に向けた長期的な学習計画による学習時間の確保が課題である。 ・長期休業中における学習時間・内容の充実が必要である。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①各学力層に対応するため，教材研究を充実させ，教科内の情報共有を密にし，日々の授業を計画的に行う。特に上位層への指導を充実させる。【考】	①平日「学年＋2」時間，休日「学年＋5」時間の学習時間を確保させる。【基】
	②学習連絡会，教科会等で，本校の学習に関する問題点（特に評価）を検討，改善するなど，組織的に対応する。【発】	②生徒の学習活動における自己分析と個別面談の充実により，個々の状況に応じた学習スタイルを確立させる。【自】
	③必要に応じて授業カリキュラムの見直しを行い，生徒の様々な選択科目に，適切に対応する。【基】	③長期休業中にどのように学習に取り組むべきかを考えさせ，偏りのない学習と弱点強化に努めさせる。【自】
④ 具体的な取り組み	①定期・実力テスト等の分析を丁寧に行い，各教科における指導法を振り返るとともに，教科会等で情報を共有し，各学力層に適切な指導を続けていく。 ①職員室や準備室において生徒の知的好奇心を高め，主体的な学びを喚起するための話し合いを行い，授業や土曜講座の充実を図る。 ②常に問題意識を持ち，学習連絡会等に事前に議題を提出することで，話し合いを充実させていく。 ③選択科目の実施状況を教科，学年で把握し，広く意見交換することで，より良いものを目指し改善していく。	①担任との面談で各生徒の状況を把握し，その内容を学年で共有し，学年団として適切な指導を日々行っていく。 ②LHRや学年集会等を活用して，動機付けや具体的な助言を行い，自主的な学習への取り組みを促進する。 ②定期考査や実力テスト等の振り返りや自己分析を行うことで，学習に前向きに取り組ませる。 ③長期休業の過ごし方について，早い段階から学習計画を立て，課題克服のための工夫ができるよう面談等で指導する。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し，()は 5 わから ないの割合を表す < >…昨年度データ	①栃高評価⑤(習熟度別授業[数学])では生徒 89(2)<87(3)>，②(習熟度別授業[英語])では生徒 80(1)<88(2)>であった。生徒向けに学力各層に応じた指導と上位層への適切なアプローチはできている。 ①教科会で，各種テストの丁寧な分析，教材や課題の検討，指導法の改善，生徒情報の共有等を行うことにより，各学力層に適切な指導ができている。 ②学習連絡会では，授業や評価規準の教科間の共通理解を図り，問題が発生すれば話し合いを行うなど，適切に運営してきた。 ③現在授業カリキュラムの改善を行っている最中である。	①第2回学習実態調査の平日の平均学習時間は，3年 234分，2年 136分，1年 122分であった。目標学習時間を達成できている割合が少ない。生徒間の差が大きく，休日の学習時間の確保にも課題がある。 ②栃高評価①(面談による学習アドバイス)では生徒 93(1)<92(3)>保護者 91(5)<91(4)>，⑦(自ら学ぶ取り組みへの適切な支援)では生徒 86(1)<81(2)>保護者 89(6)<88(5)>と適切な支援をしているが，学習状況が良くない生徒も存在する。 ③栃高評価③(長期休業期間の学習アドバイス)では生徒 87(1)<86(2)>保護者 83(9)<82(10)>と良好であるが，課題の提出状況等から，自発的な学習習慣の育成を促進したい。
⑦学校関係者評価	・習熟度別での指導は継続しつつ，三年間をかけてどのように生徒を育てるのかという視点で教育活動を進めるとともに，そのことを生徒、保護者と共有することが望まれる。	・個別面談により，目標設定の支援はできている。学習時間の確保に課題がある。そこで，長期的な視点での学習計画を生徒と共有するとともに，シラバスの活用を促進するなど，学習時間確保のための具体的な対策が望まれる。
⑧次年度への課題	・栃高評価⑤(習熟度別授業[数学])では保護者 79(15)<82(14)>，②(習熟度別授業[英語])では保護者 79(15)<75(21)>であった。今後保護者向けに内容等を知らせる工夫をしていきたい。 ・生徒のモチベーションアップや学力差に対応できる指導法を常に模索する必要がある。	・毎年であるが，学習時間の確保が課題である。 ・多くの生徒はある程度は学習しているが，教員が求めている学習時間までは到達していない。教員・生徒とも面談・学習アドバイスまでは良好である。生徒が自主的にさらに学習時間を増やすにはどうすべきか，常に考えていく必要がある。

① 重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現 【進路】【各教科】【各年次】			
② 重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承	4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供		
③ 現状	- 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会、LHRでの大学研究・学問研究等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、内発的動機、学習意欲の向上を目指している。 - 生徒の進路志望が以前より幅広くなり個別対応が重要性を増している。効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容についての共通理解と幅広い進路情報の入手が必要である。		- 校内模試結果の分析による生徒の学習状況の把握や、進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 - 新課程入試に向けての情報提供のため、進路学習室の環境整備やHRの進路関係書籍の充実が必要である。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①土曜講座の実施形態の工夫、狙いの明確化、内容の充実とともに、保護者への内容の周知を図る。展	B	①現在の全国の志望動向を入念に調査し、校内ランキングの精度をより高めることによって、低年次からの指導や進路指導委員会をさらに充実したものにしていく。考	A
	②LHRや年次集会を通して年次毎の進路計画を共有し、面談を通して生徒自身が主体的に計画を立てられるよう支援する。協	B	②個別大学模試の分析、分析報告会の情報の共有、入試研究をもとに生徒の進路実現に向けた指導を行う。課	B
	③三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図り、生徒への低年次からの働きかけ・支援を強化する。自	B	③「高大接続改革」に関して、新入試改革への対策、その効果的取組が学校全体で着実に進められるよう努める。情	B
⑤具体的な取り組み	①生徒の学力向上のために、土曜講座の実施形態(全員・希望講座、個別指導等)を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実させるとともに、その内容をHPなどで、外部へも発信していく。 ②これまでの蓄積(LHR資料、年次独自の進路関係行事の記録、長期休業前指導の資料、各資料や行事の意義を明文化した資料等)を活用し、LHR以外にも積極的に進路学習の機会を設定できるようにする。 ②年次ごとの進路指導の目標(文理選択・学部学科研究等)を明確化し、生徒が教員との面談を通して自己理解を深めるとともに、様々な進路行事への参加から進路意識を高揚させ学習意欲の向上につなげられるようにする。 ③年次毎にその時期の面談の意義や進路指導委員会等の進路行事の目的を職員間で共有し、ノウハウの蓄積・継承を行いながら生徒への進路指導に還元していく。		①校内模試の分析を丁寧に行うことにより、生徒の学力の把握に努める。また、各種研究会や大学説明会で得た情報を共有し、校内ランキング作成に活用するとともに事前検討会を充実させる。 ①ランキング作成で得た知識を生かし、低年次から学力層毎の進路指導を行うことにより生徒の学習意欲や進路意識の向上を図る。 ②個別大学模試の分析や追跡調査、業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 ②入試問題を研究することによって、入試情報を更新していく。また、低年次からの進路情報提供の一環として「大学入試問題研究」を充実させ分析結果を校内実力テスト・校内模試の作問につなげることで、生徒の学力向上を図る。 ③「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し、各年次の取組に対し、学校全体での支援が行えるようにする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、()は5 わからないの割合表す < >…昨年度データ	①栃高評価②(土曜講座の充実)では、生徒83(4)<77(4)>で3年ぶりに高い評価を得た。しかし、保護者は75(18)<73(20)>と低い水準のままである。HPを利用しながら情報発信を続けていく。 ②栃高評価④(3年間を見通した進路指導)では、生徒91(2)<89(2)>と肯定的評価の割合が今年度も微増した。校内での指導だけでなく、校外研修への積極的な参加を促すなど進路指導の充実が図られた。 ③進路指導部の打ち合わせでの議論により、本校の進路指導の意義を部内で共有することができた。それが年次担任団の進路指導にもつながった。今後も活発な議論を行っていく。		①入試のトピックスを収集・分析することで、校内ランキングの精度を上げることができた。また、生徒のニーズに合わせ、ランキングを検討する大学を増やし、ランキング資料を充実させた。 ②栃高評価⑥(進路に関する情報提供)では、生徒90(1)<90(2)>、保護者89(5)<86(4)>と、例年安定している。「大学入試問題研究集録」が充実したものになり、生徒の学力向上に貢献できた。 ③新課程入試に関する情報収集を入念に行い、3年次担任団に詳細な情報を提供できた。今後も入試情報だけでなく、学部の改組などの情報も積極的に発信していく。	
⑦学校関係者評価	土曜講座に対する評価は良好なので、指導を継続していただきたい。また、土曜講座の内容に関しても、HPで発信するなど、外部に対する周知を継続していただきたい。		進路指導は生徒一人一人の将来を見通したものになっており充実した内容となっている。引き続き、新課程入試のことを踏まえ、生徒の希望する大学につながる指導を充実していただきたい。	
⑧次年度への課題	- 引き続きHPにて土曜講座の内容を発信していく。 - 東京研修や東北研修、オープンキャンパスへの積極的参加を促していく。夢ナビなどのオンライン講義の積極的活用も勧める。 - 本校独自の進路指導力の伝承とその強化に努める。		- 生徒のニーズに合わせ、ランキング検討大学の変更等を行う。 - 大学入試問題の研究を行い、教員の教科指導力の向上を図る。 - 担任打ち合わせで進路情報を共有し、生徒面談に生かす。 - 新課程入試に向けての対策の強化に努める。	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成【図書館】		e 健康的な生活のための生活習慣の確立【保健厚生】	
②重点課題	5 図書館利用の質的な向上をめざした支援体制の整備		6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成	
③現状	・平成26年度には年間貸出数5,000冊超の記録を達成したが、その後は徐々に減少傾向をたどっており、年間貸出数は令和4年度が約1,200冊、令和5年度が約1,030冊であった。 ・図書委員を中心に、推薦図書案内、読書会開催、ビブリオバトルなど、読書推進活動は比較的盛んである。 ・情報センターとしての新たな使命を踏まえ、論文検索用端末が新規導入され、運用システムも更新された。		・運動に苦手意識があり、体を動かす習慣のない生徒も多く、運動習慣と心身の健康との関係を理解していない生徒も多い。 ・ゲーム等の娯楽を目的としたスマートフォンやタブレット等の使用時間が長く、睡眠不足や気分不良といった健康的な生活習慣の確立に悪影響が出ている生徒がいる。 ・感染症に対する正しい知識を身に付いておらず、適切な判断ができていない生徒がいる。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①思考力や教養を高めるための、授業や図書委員会における読書推進活動のさらなる活性化を図る。発. 協. 考	B	①週3日以上運動（部活動含）を実践する生徒80%以上を目指す。展	B
	②年間貸出数1,500冊以上、年間貸出数10冊以上30名を目指す。基. 課. 自	C	②平日及び休日のスマートフォン及びタブレット等の使用時間3時間以上の生徒を前年度比70%以下にする。基	C
	③GIGAスクール構想に基づくICT教育の推進に資する情報センターとしての支援体制の充実を図る。情. 展. 課	B	③国や県の方針を踏まえた、健康に影響し得る正しい知識の習得と適切な行動ができるようにする。自. 課	B
⑤具体的な取り組み	①生徒に「高校生読書コンシェルジュ」研修への参加を促し、その研修内容を踏まえて、図書委員を中心により多角的な活動を推進する。 ②各教科と連携を図り、教科指導の内容に関連した企画・展示・案内などを充実させ、図書館利用者数の向上を図る。 ③公立学校図書館という旧来の発想に捉われず、柔軟な発想から、生徒の探究活動を支援する体制を整備する。		①授業を通じて、正しい運動、個に応じた運動と、健康状態・健康課題を考えさせる。また、部活動や体育的行事などでも運動の効果を実感させ、運動の習慣化の大切さについて理解させる。 ②保健の授業や「保健だより」等でスマートフォンやタブレット等の過剰使用の悪影響を正しく情報提供し、健康的な生活習慣の確立に向けて生徒自らが適切な意思決定・行動選択ができるよう指導する。 ③国や県教育委員会から通達される、生徒の健康に関する留意事項等を、保健の授業や「保健だより」等で適切に伝え、生徒が自ら健康意識を向上できるよう指導する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合を表す < >...昨年度データ	①今年度は「高校生読書コンシェルジュ」研修への参加希望が1名あった。残念ながら、本人は図書委員でなかったため、研修内容を活かした活動の導入については、今年度は間に合わなかった。来年度は、ぜひ図書委員としての積極的な活躍を期待したい。 ②新刊案内・展示などに活動が留まり、教科と連携を図った企画までは実施に至らなかった。図書貸出数も、12月現在661冊と前年比約21%の減であった。 ③生徒の探究活動に伴う図書のニーズの把握し、情報機器の利用と図書の検索・活用を連係させる糸口を見出すのが難しい。		①運動頻度において、週に3日以上運動を実施している生徒は、全体の53%であった。各活動自体にはよく取り組んでいるものの、自ら進んで運動を実施する態度には課題が残る。 ②平日及び休日にスマートフォン及びタブレット等を3時間以上使用している生徒の割合は、令和5年度15.25%に対し、今年度16.17%に増加した。更なる努力、改善が必要とされる。 ③栃高評価⑧（生徒が健康的な生活を送るための指導） 生徒72（2）<76（3）> 保護者82（8）<83（6）> 耐久レースの練習等を利用し、生徒に自分自身の健康状態を整える指導を進めてきたが、生徒による評価が前年度から約4ポイント減少した。	
⑦学校関係者 評価	・貸出数の減少は、ICTを活用するなど読書形態の変化もあり、それが影響している可能性もある。SSHとの関連も踏まえ、図書館の新たな活用についても検討する必要がある。また、貸出数を増やすための、生徒にとって魅力的な活動をさらに推進することが望まれる。		・スマートフォン利用の場所や内容についてアンケート調査をすることで、対応策が見えてくるのではないかと。 ・運動習慣が健康や学習によい影響を与えるなどの有益性について、引き続き指導をしていたきたい。	
⑧次年度への 課題	・まずは、より多くの生徒が足を運び、図書が身近にある場所、そして図書を介して生徒たちが交流できる場所としての図書館づくりを足がかりにし、そこから生徒の図書経験の増加や読書体験の深化を促すような活動の推進を図る。また、生徒の探究活動との連携を強化し、関連図書の検索・活用の活性化を図る取り組みを検討する。		・運動頻度については、年度始めに実施される「新体力テスト」アンケートを参考にデータ処理している現状であるため、アンケートの実施時期及び題材の見直しを図った上での評価が必要である。 ・保健厚生部、保健委員会との連携を密にするとともに、家庭を含めた日常生活全般で活かせる健康指導が必要である。	

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】 【教務】			
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事，部活動，体験活動に全力的に取り組むための環境整備		
③現状	・生徒が組織する栃高祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり，全員参加による学校祭を企画している。 ・コロナ5類移行2年目の今年度は，昨年度以上のお客様の来校を期待しつつ，それに見合う栃高祭全体の質的向上も企図している。 ・安心安全な栃高祭の実現のためにも，感染症対策の徹底は継続する必要がある。 ・準備段階において，物品・公共物の使用に関する指導が必要である。		・部活動，移動教室，外国人との交歓会，ボストン海外研修，県庁堀清掃ボランティア，生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では，栃木市役所との協力関係を構築し，実施体制が確立されている。 ・文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが，進路実現のための日々の学習時間の確保と，部活動や生徒会活動等の様々な活動の両立とを，より一層促していく必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①生徒の自主性を尊重する栃高祭の運営を図りつつ，栃高祭全体の質の向上に向けた実行委員会と文化委員の指導・支援体制の確立を目指す。【考】 【協】 【課】	B	①学校全体の活性化のためにも，1年間を通して部活動加入率80%以上を達成する。【展】 【自】 【課】	B
	②今年度も安心安全な栃高祭を標榜し，感染症対策をはじめとする各種安全策について，生徒の創意工夫を促すとともに，生徒とともに考えながら様々な工夫を凝らし，臨機に対応する。【課】 【展】 【発】	B	②移動教室，ボストン海外研修，生徒会リーダー研修等の行事を通して，生徒のリーダーシップ・フォロワーシップの育成を図り，且つその生徒の存在が周囲への良い波及効果を生み出せるよう，指導内容の質的向上を目指す。【自】 【協】 【情】	B
	③学校祭に関わる諸活動を通じて，生徒の公共心を涵養することに努め，生徒に求められる資質形成の一助とする。【自】 【協】	B	③耐久レースの完走率100%（対出走者比）を達成する。【展】 【自】 【課】	A
⑤具体的な取り組み	①実行委員会を定例化し，生徒会係職員を中心として，職員と実行委員，文化委員の連携を強化する。 ①クラス企画に準備段階から計画的に取り組めるよう，文化委員と実行委員との連携を密にするとともに，文化委員と担任との関わりを充実させる。 ①実行委員会内審局の生徒との情報共有を丁寧にし，クラス企画の進捗状況の把握と指導助言をすることで，質の向上を目指す。 ②県内外の他校の様子や各種イベントでの感染症対策の情報を収集し，実行委員会の生徒と共有する。 ③あくまでも公共の場・物品を使わせてもらっているのだということを常に意識させ，生徒たちが，自ら公共心を涵養するようにさせる。		①特別活動全般において，その意義を各クラスにおいて指導し，事前指導・研修の機会を設け，参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 ①年度初めの部活動加入率の調査と，中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 ①部活動と学業の両立支援の通知を配付し，生徒や保護者に周知するとともに，部活動優先日（金曜日）を徹底する。 ②移動教室やリーダー研修では，生徒主体での行動が出来るように事前の準備を丁寧にし，内容の充実を図る。 ③体育科の協力も仰ぎつつ，耐久レースに参加することの意義を考えさせるとともに，完走の実現に向けた日々の鍛錬の充実を図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し，()は 5 わから ないの割合表す < >…昨年度データ	①栃高祭に関しては，台風の影響などもあり開催自体が危ぶまれたが，生徒・職員の協力の下，大きな問題は無く終えることができた。ただし，栃高祭実行委員と生徒会役員との，生徒間の連携がうまくいっていないところもあったので，次年度は改善したい。また，本年度は日曜開催としたが，問題の報告はなかった。 ②感染症対策に関しては，概ね実現できた。 ③貸借物品の扱いに関しては，今年度も課題が残った。		①部活動加入率は，1年生84.2%，2年生70.4%，3年生76.5%，学校全体では77.0%であった。 ②ボストン海外研修，移動教室，県庁堀清掃等，各種行事は例年通り行えた。ただし，時代の趨勢というか，存廃も含めてゼロベースで，聖域を設けずに学校全体で検討できたと思う。 ③耐久レースの完走率は99.2%であった（対出走者比）。体育科の御指導と，生徒たちの努力の賜物である。	
⑦学校関係者 評価	・生徒、保護者共に評価が高く、充実した内容が伺える。変わらぬ生徒主体の栃高祭は、好ましい。		・時代の流れで、行事の精選は必要なことだと考える。スクラップ&ビルドの考えで勧めて欲しい。海外研修については、アジア圏内にも優秀な大学はたくさんあるので、アジアも検討してみてもいい。	
⑧次年度への 課題	・栃高祭に関しては，生徒たちの自主性や協調性を伸ばすことのできる機会であるので，改善すべきところは改善しつつ，新年度も引き続き今の形態で実行したい。 ・特定の教員に過度の負荷がかからないよう，特活部の中での分掌内容や役割分担も精査していきたい。		・ボストン海外研修と県庁堀清掃とは，実施時期の変更や代替案も含めて，柔軟に考えていきたい。 ・次年度は六校会の幹事校になる。事前の入念な打ち合わせが必要。また，栃女との交歓会に関しては，存廃も含めて考えていきたい。 ・部活動加入率・耐久レース完走率に関しては，引き続き高い数値目標を設定し，学校の活性化につなげていきたい。	

① 重点目標	g 規範意識と社会性の向上			【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上			10 校内生活における規範意識の向上と望ましい人間関係の構築	
③現状	・各教科やHR・学校行事等において、生徒たちが安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 ・学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成や品位ある言動につながることを理解させる生徒指導を実践している。			・生徒一人ひとりに自己肯定感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 ・規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	①交通事故発生ゼロを目指す。基	A	①いじめ解消100%を目指し、早期に発見し、組織的に対応・解決する。展	B	
	②登下校時の苦情ゼロを目指す。協	B	②スマートフォン等の規程違反生徒数昨年比80%を目指す。考	B	
	③ネットトラブル等の発生ゼロを目指す。自	B	③教育相談など支援が必要な生徒の早期発見と早期対応に努める。情	B	
⑤具体的な取り組み	①交通事故の防止については、生徒たちが、被害者及び加害者にもならないことを目指し、時間的な余裕が持てるような生活習慣を指導し安全な登下校指導、HRでの注意喚起など、教育活動全体を通してルールの遵守を指導する。 ②教職員、生徒会交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、他の模範となるような行動を目指す。 ③情報モラル講話やHR活動など様々な場面においてネットトラブル(SNS)について学ぶ機会を設け、情報モラルを理解した上で行動できるよう指導する。			①生徒同士がお互いの特性を認め合い好ましい人間関係を構築し、いじめが起これにくい集団づくりの指導をする。 ②スマートフォン等使用規定や校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、ルールを守る規範意識を高める指導をする。 ③定期的に学年主任、各部長間で不適応傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努めケース会議を迅速に開く。必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。「生活アンケート」や「QUテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。	
⑥評価 *栃高評価満足度％は1 と思う+2 大体 と思う の割合を表し、 ()は 5 わからないの割合を表す < >…昨年度データ	①栃高評価⑫(交通ルールの遵守やマナーの向上)生徒79(3)<82(3)>保護者83(12)<83(12)>交通事故発生件数0件(昨年度比-3件)昨年度より-3件と交通事故は減少した。今年度は交通事故0件であった。自転車乗車中のヘルメット着用を推進し、保健の授業や交通安全講話、ホームルームでの注意喚起など、教育活動全体を通して更に指導することができた ②交通関係のマナーの苦情1件(昨年度比+1件)職員、生徒による街頭指導を予定通り実施(4回)した。またPTA合同の通学路指導を実施(2回)した。苦情に関しては、学校祭での近隣施設への保護者の駐車である。保護者に路上駐車・近隣施設への駐車をしないようにアナウンスをする必要がある。 ③情報モラル講話や学年集会にて情報モラルを理解した行動ができるよう指導した。しかしながら、ネットトラブルは1件起きてしまった。継続的な指導が必要である。			①いじめ認知件数4件(昨年度比+2件)「生活アンケート」から2件・問題行動から2件確認されたが、担任・部顧問・学年主任の連携により早期に対処することができた。 ②栃高評価⑬(生徒の規範意識を高めるための指導)生徒82(2)<85(3)>保護者86(10)<86(9)>栃高評価⑭(携帯電話等のルール遵守と情報モラルの向上)生徒80(3)<78(3)>保護者87(7)<89(7)>携帯電話等規定違反20名指導(昨年度比0件)放課後等、気が緩み使用してしまったケースがほとんどである。 ③栃高評価⑨(悩み等の相談体制の整備)生徒77(6)<78(8)>保護者77(14)<78(14)>「生活アンケート」や「QUテスト」を実施し、その検討会も実施した。また、主任会議等を利用し、各学年間との連携もしながら、その都度、ケース会議を実施した。その効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握を早期に把握できた。	
⑦学校関係者評価	・交通マナーに関しては、成果が出ている。ネットトラブルに関しては、指導の強化が望まれる。			・生徒指導では、学校の指導が功を奏しているようである。いじめに関しては、当事者はもちろんのこと、生徒全体に対しても継続的な指導をお願いしたい。	
⑧次年度への課題	・基本的な生活習慣の確立を促すべく、生徒が自らの行動を考える機会を設定し、交通事故やネットトラブルのない安心・安全な学校環境を徹底していく。			・規範意識の向上のために生徒が主体的に考え行動できるよう、授業・学校行事・学校生活を通じ指導を徹底し、いじめのない学級集団の形成・悩みの早期発見・早期解決に尽力する。	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み【保健厚生】	i 広報活動の充実【渉外】【教務】
②重点課題	11 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	12 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開
③現状	・清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓について、時期やクラスによって不十分な場合がある。特にテスト終了後テキスト等が散乱することが多い。 ・「全員清掃」の徹底が不十分である。 ・可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好であるが、故紙の再資源化への意識が不十分である。	〔渉〕「PTA だより」を年2回発行している。 〔渉〕PTA 評議員会を年4回開催している。 〔渉〕PTA 総会、クラス懇談会、PTA 支部会、学年研修会において進路学習・生徒指導等の取組や現状についての情報を提供している。 〔教〕学校案内などのリーフレットは充実してきた。中学校訪問の案内を中学校に通知しているが、希望する学校数は多くない。 〔教〕HP の更新が特定の行事や一部の部活動になってしまっており、学校全体の発信が不十分である。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①テスト終了後のロッカーの上を整頓や、教室周辺の清掃を徹底するなど、校内の環境美化を図る。自. 園	〔渉〕①「PTA だより」の内容を再検討するとともに PTA 関連行事の開催内容等を見直し、情報提供の更なる充実を図る。B
	②「全員清掃」の意義を職員や生徒に理解させるとともに、テスト期間を含め、どの時期においても「全員清掃」を徹底する。考. 協	〔教〕②一日体験学習の内容や中学校訪問の時期を検討・改善し、本校の広報活動を推進する。B
	③リサイクル活動を通してゴミの分別を推進し、故紙等の回収量を年間 8,000 kg 以上とする。考	〔教〕③定期的に、係で HP の更新状況の点検や打ち合わせ等での更新の呼びかけを行い時期を逸しない更新を維持する。B
⑤具体的な取り組み	①栃高評価⑮（環境美化、ゴミ減量化、リサイクル運動の推進）生徒 70（4）＜69（6）＞ 保護者 68（24）＜72（20）＞生徒による評価が前年度から 1 ポイント増加し、70%台に乗ったものの、保護者の評価は 4 ポイント減少した。まだまだ教室周辺の学習環境（特に定期考査後）は改善されておらず、環境美化への適切な指導改善が必要である。 ②「全員清掃」についての呼びかけは昨年度より良好であったが、まだまだ徹底できておらず、課題が残った。 ③ゴミの分別は、概ね良好であった。また、古紙の回収量は直近 1 年間で総 8,560kg であり、目標値に到達した。	〔渉〕①「PTA だより」に校内の様子や保護者の声をより多く掲載することで、情報の提供を図る。 〔渉〕①PTA 行事の内容をあらためて検討し、その充実に取り組む。 〔教〕②中学校訪問については、年度末に 2 年生を対象とした依頼もあったことから、募集時期や対象学年を見直す。 〔教〕③朝の打ち合わせでの部活動報告に併せての HP の更新や、学校行事以外の普段の学年集会などの様子の更新も各学年に依頼する。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、() は 5 わからないの割合を表す < > ……昨年度データ	①栃高評価⑮（環境美化、ゴミ減量化、リサイクル運動の推進）生徒 70（4）＜69（6）＞ 保護者 68（24）＜72（20）＞生徒による評価が前年度から 1 ポイント増加し、70%台に乗ったものの、保護者の評価は 4 ポイント減少した。まだまだ教室周辺の学習環境（特に定期考査後）は改善されておらず、環境美化への適切な指導改善が必要である。 ②「全員清掃」についての呼びかけは昨年度より良好であったが、まだまだ徹底できておらず、課題が残った。 ③ゴミの分別は、概ね良好であった。また、古紙の回収量は直近 1 年間で総 8,560kg であり、目標値に到達した。	①「PTA だより」の内容については、情報や保護者の声を満載した。 ① PTA 行事については内容等の精選が求められている。 ②一日体験では、保護者も教室でオンラインでの実施を行い、熱中症対策等を講じた。部活動見学等に関しては、さらに改善の余地もある。学校訪問については、昨年同程度の実施を行った。 ③HP の更新は、係から発信することで昨年よりも更新数は増加した。しかし、頻度の差や HP のリニューアルなど課題も多く、学校評価で情報発信が 6 ポイント減となった。
⑦学校関係者評価	・環境美化に対する意識づけは良好である。ゴミの分別、リサイクルの推進等、引き続き指導をお願いしたい。	・広報活動を通した情報の周知の方法に関して、HP をさらに充実させるなどの工夫が望まれる。
⑧次年度への課題	・適切な清掃分担区割り振りと、全員清掃への意識改善が必要である。 ・生徒のモラル向上及び環境美化委員会を中心とした自教室以外の環境美化への意識改革が必要である。	① PTA 組織、行事内容等の見直し。 ②一日体験を含めて、部活動見学・施設見学などより魅力を発信できるように工夫する。 ③HP の部活動や行事等を定期的に更新するための方策の検討、魅力ある HP へのリニューアルを継続する。

①重点目標	j 国際社会で活躍できる有為な人材の育成 【SSH】	
②重点課題	13 課題研究指導方法の確立	
③現状	・定着してきた「一人一研究」と「ゼミ活動」を効果的に組み合わせ、引き続き3年間の栃高探究スタイルという探究活動を深める流れを確立していく必要がある。 ・研究におけるデータの取り扱いの指導を充実させる必要がある。 ・コロナ禍でオンライン交流を行ってきたマレーシアの高校生と昨年対面交流が実現したが、国際性育成の取り組みをより活性化させる必要がある。	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①新たな課題研究Ⅲと今までの課題研究Ⅰ、Ⅱを効果的に組み合わせ、栃高探究スタイルとしての3年間の計画を立て、その計画の実施率100%を目指す。 課.情.考.発.協	B
	②課題研究における探究プロセス修得の質的向上を図り、外部発表への参加件数を増やすと共に、本校主催のSSH事業への外部からの参加者も増やす。 発.協.考	B
	③海外研修の実施やオンラインでの交流等、生徒の国際性育成に向けた取り組みをさらに充実させる。 基.展.発.協	A
⑤具体的な取り組み	①これまでの指導計画・内容を整理・改善させながら、1年次前期「課題研究ケーススタディ」、後期～2年次前期「一人一研究」「ダイアログゼミ」、後期「コネクトゼミ」、3年次「ハイブリッドゼミ」「下級生への助言」「未来探究」という形で実施する。 ①課題研究の授業時間を全校で揃え、異年次の生徒同士が交わり互いに成長する機会を複数回設定する。 ②SS情報や課題研究に関する講座等での学びを、課題研究の進捗に合わせて適切に取り入れていく。 ②外部からの参加者増に向けて、案内の時期や方法を工夫する。 ③事前学習や事後の取り組みを計画的に行った上でマレーシア海外研修を実施し国際性の育成を図る。 ③国際性の育成につながるよう既存の取り組みを改善する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合表す < >...昨年度データ	①課題研究Ⅲの取組みは、厳しい予定を組んだため、年度当初から計画を一部変更して実施した。指導計画・内容についても改善が必要。 ①異年次の生徒同士の交わりは、計画書への助言を初めて対面実施とし、新たに研究を後輩に発表する機会も新設した。今後も継続したい。 ②データの取り扱いでは新たに仮説検定をテーマにした講座とSS情報での演習を実施。各担当者が集まる打合せを定期的に開催した。 ②一人一研究から日本学生科学賞栃木大会へ出展7件（昨年3件）。内5件が最優秀賞1件など入賞。その他の外部発表数も増加した。 ③共同研究を目指す新たなSSHマレーシア海外研修が実施できた。 ③一人一研究の取り組みで改善した。さらに効果的な取組を模索する。	
⑦学校関係者評価	3期も後半を迎えるにあたり、さらに内容の充実を図ると共に3期15年のまとめを整理する必要がある。	
⑧次年度への課題	・課題研究Ⅲの内容改善と3年間の課題研究のより良い接続を目指す。 ・SS情報と課題研究の授業内容と指導のさらなる連携を図る。 ・国際交流の恒例化と多くの生徒に効果のある取り組みの充実。	